

新しい包摂的イノベーションと包摂的成長モデルの創造に向けて

令和 4 年 4 月 1 2 日

株式会社経営共創基盤

IGPI グループ会長 富山和彦

・DX x GX による破壊的イノベーションの時代、成長のメインエンジンは、これからますます大学・研究機関周辺から生まれる知識集約型のスタートアップ、ベンチャー企業群を中心としたイノベーション生態系へ

ー不連続なビジネスモデルの創造、ゲームチェンジの起点は、古今東西その時

点で若い企業群、事業群

ー既存大企業にとっても強力なスタートアップエコシステムへのアクセシビ

リティがイノベーション（新結合）成長力を大きく規定する

・次にこうしたグローバルモードの破壊的イノベーションの生態系は必然的にグローバルなものであり、「日本人の日本人による日本人のための」という発想ではまったく勝負にならないことも肝に銘じるべき

ーあらゆる意味（国籍の壁、産業の壁、企業の壁、産官学の壁・・・）でボーダ

ーレスかつダイナミックな生態系

・日本と言う地域をホームとする（地域的優位性のある）、世界のベスト&ブライテストが集まる生態系を作れるか否かが勝負

・そこでまずは絶対にクリアしなくてはならないのが、世界のベスト&ブライテストにとって、人生のプライムタイムを送る場所として日本が魅力的である最低限の条件が整っていること

・そこでの最低必要条件は、

- ① 安全で快適で楽しい場所であること
- ② 税制面で会社にとっても個人にとってもスタートアップフレンドリーであること
- ③ 在留資格などの面でストレスがないこと
- ④ 子弟の教育においてグローバルトップ大学への進学上不利にならないこと
- ⑤ 研究者を含む知的高度人材の報酬が世界相場であること
- ⑥ 世界クラス（基礎研究レベルにおいても事業化意欲においても）の大学・研究機関、関連企業群（大企業、中堅中小、VB、VC等）のクラスターの存在

・この中で日本は①（安全、快適性、楽しさ）はOK、⑤⑥（大学改革、報酬水準）はまさに問題克服に向かって走り出したわけだが、②（税制）③（在留資格）④（子弟の教育）で劣位に立つと、結局、大したことは起きない。この3点でも世界的に優位に立つことはDX x GX時代におけるイノベーション牽引型成長実現の絶対必要条件である。新しい資本主義の時代、ESGの時代になってもこれは絶対に変わらない。

ーちなみにスタートアップ優遇税制について、現状の成功例が少ない我が国で財源論を議論するのはややナンセンス。むしろこれは将来の法人税や所得税、消費税などの財源を生み出すための財源拡大政策と位置付けるべき

・日本の得意スタートアップ分野はおそらくサイバーフィジカル領域、リアルローカル領域なことに加え、DX x GXの破壊的イノベーションはこの領域で期待されていることもあり、強力なエコシステムが形成できれば、多くの人々の所得と生活を豊かにする包摂的なイノベーション（inclusive innovation）、包摂的な成長(inclusive growth)につながる、まさに日本発の新しい資本主義モデル形成に結びつく可能性が大きい。